

Pai

～仲間



2014
Fall Edition
Vol.83

国際化協会は、設立20周年を迎えました。 Celebrating 20 years



Contents

ごあいさつ.....	2
祝辞.....	3
20周年に寄せて.....	4～5
20周年記念表彰について、受賞者の横顔.....	6～7
20周年記念座談会「多文化」は地域を元気にするか？.....	8～11
国際化協会の活動紹介、沿革.....	12～13
大和市国際化協会からのお知らせ（参加者募集）.....	14～15
国際化協会の活動に協力するには.....	16

ごあいさつ

公益財団法人大和市国際化協会理事長 小木曾 明



1980(昭和55)年2月、大和市にインドシナ難民の受け入れ施設である定住促進センターが設置され、センター出所後、多くのインドシナ3国(ベトナム、ラオス、カンボジア)出身者が市内に暮らすようになりました。

さらに1990(平成2)年の入国管理法の改正により、日系人の中長期にわたる滞在が可能になり、大和市においても南米にかかわりを持つ市民が急増しました。

はじめは互いにカルチャーショックもあったであろうと想像しますが、小さくも心の通った交流を積み重ねることで、この大和市には、多様なものを受け入れる土壌が、他市に比べて早くから涵養されていったのではないかと思います。

そのような社会的背景の中、1994(平成6)年に地域の国際化の拠点を目指して、財団法人大和市国際化協会が設立されました。

現在、「外国人市民の自立と社会参加を促進する事業」及び「市民の相互理解を促進し、市民主体の国際化推進活動を支援する事業」の2本を柱に据え、様々な事業を展開しております。

「外国人市民の自立と社会参加を促進する事業」の中の一つである「日本語・学習支援ボランティアの派遣」事業は、2006(平成18)年3月に出された第1期大和市多文化共生会議の提言を基に始めた事業で、外国につながる児童・生徒のもとに、ボランティアを派遣して日本語や教科の学習を支援しているものです。

外国につながる児童・生徒を取り巻く環境に触れてみると、彼らはもちろん、その親世代、祖父母世代といった外国人市民全般の抱える問題は、制度上の課題、日本語力と学力を向上させることの困難さ、心の壁、また、望む将来とのギャップ等、多岐にわたっていることが見えてきます。

しかし、そのような状況下でも、子どもたちが地道に学習を重ねることによって、日本語力を向上させ、自信をつけて自分の道を選択し歩んでいく姿を見ることは、大きな喜びであり、私たちの活動の励みであります。

この20年間、日本が様々な困難に直面したことが外国人市民の抱える課題を通して見えてきました。今また、高齢化や少子化、地方の再生という新たな課題を抱える中で、今以上に外国につながる方たちの受け入れを進め、持続可能な社会を目指していこうという流れがあります。

これからの大和市について考えるとき、外国人市民を含むすべての市民が、多様性を認め合い、多彩な力で、まちづくりに参画していくことが求められると思います。

今後も当協会は、行政、地域の企業や団体、そして市民をつなぎ、協働して外国人市民を取り巻く環境を整えていくことで、地域に貢献できるよう取り組んでまいります。

外国人市民は、国籍も文化も言語も様々です。いくつもの文化的背景を持つ人も少なくありません。

「一人ひとり」と向き合い、互いに分かり合うために心を配ることが大切と考えます。

これまでの市民の皆様のご理解・ご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、今後更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

大和市国際化協会の設立20周年に寄せて

大和市長 大木 哲



公益財団法人大和市国際化協会が設立20周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。本市には現在、69もの国や地域の外国人市民が暮らしており、全国的に見ても国際色豊かな都市です。このような特色のある本市では、日本人市民と外国人市民が互いを尊重し、互いを理解しあう多文化共生が必要不可欠です。

皆様方におかれましては、外国人市民への日本語学習支援とともに、多言語や、やさしい日本語による情報提供をしていただいております。一方、日本人市民に対しても、この機関誌「pal」などを通じて外国人市民の生活を紹介したり支援を呼びかけたりしておられます。この場をお借りして感謝を申し上げます。

本市としましては、各国料理を集めた「やまと世界料理の屋台村」を毎年開催するなど、多文化共生に向けて積極的に取り組んでおります。今後とも本市へのご支援、ご協力をお願いいたします。

結びとなりますが、貴協会の今後ますますのご発展を祈念して、お祝いのあいさつとさせていただきます。

大和市国際化協会設立20周年を祝して

大和市議会議員 菊地 弘



公益財団法人大和市国際化協会設立20周年を心からお祝い申し上げます。

多くの外国人市民が暮らす本市において、貴協会は、設立以来、外国人市民のサポートや日本人市民との交流・相互理解を促進するなど、地域の国際化に大きく貢献してこられました。

特に、この20年間、時代の流れにより、外国人市民を取り巻く環境が大きく変化する中、貴協会が常に新たなニーズを取り込み、数多の事業を推進してこられましたその熱意に対しまして、深く敬意を表するところでございます。歴代の理事長をはじめ、役員・職員の皆様、ボランティアの方々、会員の団体・個人の皆様及び関係各位のたゆまぬご努力に心から感謝を申し上げます。本市議会といたしましても、多様性を認め合う、誰もが暮らしやすい豊かな地域社会の実現に向けて、努力を続けてまいる所存です。

20周年を迎えられた貴協会の益々のご発展と関係者の皆様のご健勝・ご多幸をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

大和市国際化協会設立20周年誠におめでとうございます。

大和市教育委員会

大和市国際化協会設立20周年に寄せて

教育長職務代理者 坂本 滄男



公益財団法人大和市国際化協会が設立20周年を迎えられることに、心からお祝い申し上げます。

平成26年1月1日現在、大和市には約5,600人の外国籍の方が暮らしており、市内小中学校には300人を超える外国籍の児童生徒が在籍しております。平成6年には5校に設置されていた国際教室も、現在では20校の設置となりました。

外国人児童・生徒はもちろん、外国につながるの日本国籍の児童・生徒への支援も大きな課題となっている中で、大和市国際化協会の皆さまには、児童・生徒の学習支援・生活支援、保護者面談での通訳や学校からの文書の翻訳など、様々な場面で多大なるご支援をいただいているところでございます。こうした支援活動は、児童・生徒にとってはもちろん、家庭や学校、教育委員会にとっても大きな支えになっております。

大和市国際化協会が、今後も地域に根ざした活動をさらに充実させ、益々発展されることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益財団法人かながわ国際交流財団

祝辞

理事長 福原 義春



公益財団法人大和市国際化協会の設立20周年を心からお祝い申し上げます。

神奈川県に生活する外国人数は、約16万人。社会経済のグローバル化が進み、日本に定住する外国人は増加し、また、外国にルーツがある日本人も増えてきました。

大和市は、他の市町村に先駆けて、外国人市民と共生するまちづくりを推進されてきました。そうした中で、大和市国際化協会が1994年に設立され、以来、「やまと国際交流フェスティバル」「大和市多文化共生会議」「外国人市民の主体的な学習会」へのサポートなど、職員の皆さんが熱意を持って、事業を企画し、多様性を活かした魅力的な事業をつくってきたことに敬意を表します。

日本国内に、少子高齢化などの課題がある中、外国にルーツを持つ子どもたちを含めた次世代を担う人づくりや、外国人住民の社会参画がますます重要になってくることでしょう。大和市国際化協会のますますのご発展を願うとともに、これからも、私たちとともに多文化共生の地域づくりを進めてくださるよう、よろしくお願い申し上げます。



芦原 淳

英語ボランティア

外国人の市民生活に必要な事項、生活ルール、役所関係、教育、医療事項などを英訳しています。日本の考え方を理解させる難しさもあります。



一戸 佳也子

スペイン語ボランティア

少子化で、外国人に目が向き始めていますが、国際化協会が、20年前から世界基準の多国籍社会を目指してこられたことに心から敬意を表します。今後は、一層多国籍の子ども達、お母さん達に寄り沿いたいと思います。



中西 牧里

日本語・学習支援ボランティア

祝20周年!外国から子ども達と共に学ぶことで、自身の視野も広がりました。親身に支えてくださる職員の皆様に感謝しています。



稲福スーザン

スペイン語ボランティア

20周年おめでとうございます!!!外国人市民のための活動、感謝の気持ちでいっぱいです。大和市民と外国人市民は、お互いを尊重しながら共生していきましょう!!



豊田 実紗

英語ボランティア

この度は20周年おめでとうございます。私も微力ながら翻訳を通じて今後もお役にたてたら幸いです。ますますのご発展を願っています。



中村 浩

日本語・学習支援ボランティア

外国籍児童の大半が、家庭で読書・学習の習慣が無い。週2~3回の学習支援では十分とは言えず、毎日通える国際学習室あればと思う。



竹之内 貴美江

日本語・学習支援ボランティア

学習支援活動を通じ、子ども達の成長が見られる幸せを感じております。国際交流の柱として、貴協会の更なるご発展を願っております。



長谷部 美由紀

やまと国際フレンドクラブ(IFC)会長

20周年おめでとうございます。これからも協会と手をたずさえて、国際交流、多文化共生のための活動をしていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



堂野前 智恵美

日本語・学習支援ボランティア

国際化協会の皆さまにはいつもお世話頂き、ボランティア活動を通して素敵な出会い・体験をさせて頂いております。



東 照基

日本語・学習支援ボランティア

教えるというより、子どもたちとの勉強を楽しんでいます。彼らの学びの過程に、少しでも刺激を与えられればうれしいですね。



石間 リサ

タガログ語ボランティア

日本と外国の方々の為の色々な活動に参加できて感謝しています。20年間のボランティア活動で沢山学び、いろんな方と出会えたことは私にとってかけがえないものです。これからも大和市、国際化協会、市民のために協力していきます。More power to the Association and the staff.



藤肥 敦

日本語・学習支援ボランティア

20年前から、私も参加したかった、が、国際化協会を知らなかったのも、もっと、アピールが必要だと思います。



小林 ホルヘ

スペイン語講座講師・多文化共生会議委員

大和市国際化協会にお世話になってから2年目になりましたがすごく感謝しております。またこれからみんなのために頑張ってください。



水野 美由紀

日本語・学習支援ボランティア

20周年おめでとうございます。日本語学習支援を通して、外国人児童が楽しい学校生活を送り、すてきな笑顔を見せてくれたらうれしいです。



海戸田 梨花

ハンゲルボランティア

この度は大和市国際化協会設立20周年おめでとうございます。これからの益々のご発展に微力ながら、協力できれば幸いです。



菊地 道子

日本語・学習支援ボランティア

学習支援は、私をピリリとさせるワサビのようで、いろいろ考えさせられる存在です。子どもたちが日本になじんで幸せになることを願います。



菊本 美紗

英語ボランティア

微力ながらもお手伝いさせて頂けることを誇りに思います。これからも分かりやすく、伝わりやすい訳ができるように励みます。



切石 康子

日本語・学習支援ボランティア

「これから〇時間目の授業を始めます」。姿勢を正した生徒の号令で、先生、ボランティアが真剣に学びの時間に向き合います。五十音から漢字、九九へ。



高橋 征子

日本語・学習支援ボランティア

支援してきた中学生たちが、希望の高校に合格したり、日本語能力検定試験に合格する等、成長の姿を見せてくれるのが一番うれしいことです。



斎藤 由美子

日本語・学習支援ボランティア

日本語学習支援ボランティア3年目。生徒との雑談から多くのヒントを得て、信頼できるパートナーになれるよう努力しています。



重永 和宏

日本語・学習支援ボランティア

日本語ボラを始めた年、原発事故と津波で生徒さん激減。外国ゆかりの人達の視点に教えられ、驚かされ、ボラ同士の交流も新鮮。



端山 啓子

日本語・学習支援ボランティア

設立20周年おめでとうございます。外国につながる子ども達の何か助けになればと始めましたが、私自身が教えられることも多いです。



伊藤 裕子(右)

多文化共生会議委員

設立に関った定住促進センター内藤所長の姿と共に当時のことが思い出されます。元センター職員として、今はインドシナ難民のパイプ役として、貴協会はより所です。



和田 智子

日本語・学習支援ボランティア

参加してからまだ2、3年ですが、生徒さんの学習の進展を感じることが大きな喜びです。長く続けていきたいと思っています。

ありがとう

設立20年を迎えた国際化
がメッセージをお寄せく
これを励みに、地域の国際
きますので、これからも応
いたします。

日本語・学習支援ボランティア

20周年おめでとうございます。高い理想と地道な活動の積み重ねの結果ですね。少しでもお手伝いができて私も幸せです。さらなる交流の輪が広がることを期待しています。

伊沢 千代子

多文化共生会議委員長・タガログ語ボランティア

日頃からの、私たち大和に暮らす外国人市民に対する国際化協会の温かい支援に感謝します。今後ますますの発展を祈念します。ありがとうございます！

岡崎 チャーメイン

ポルトガル語ボランティア

20周年おめでとうございます。協会の存在があるから、外国の方は安心してこの街に暮らすことができますと思います。

吉波 マルシオ・留美

日本語・学習支援ボランティア

どこの国の子ども達も素直な良い子ばかりでボランティアの日はとても楽しみです。これからもできる限り続けていけたらと思っています。

小林 ふみ子

ベトナム語ボランティア

長い間ボランティアの活動をしたおかげで家族に、そして他人に優しい気持ちで接する事ができるようになりました。本当に有難う御座います。

紺野 勝

スペイン語ボランティア

20周年おめでとうございます。外国籍の方々の生活を支えてくださり、大変やり難いです。16年間もボランティア活動をさせて頂いて光栄です。引き続き協会の皆さんからのサポートを宜しくお願いします。

恩智 敏子

英語ボランティア

グローバル化が進む日本で、外国の方が大和市に住みやすいようにとサポートされている国際化協会。20年間の継続を、本当に感謝します。これから、更なる進化を遂げ繁栄されること心より願っています。私もお手伝いさせていただけることが喜びです。

荒谷 留架

日本語・学習支援ボランティア

子ども達と一緒に話しをして、母国の食事や文化などを教えてもらっています。日本を好きになってくれたら嬉しいです。

山下 靖子

大和市教育委員会 日本語指導員

20周年、本当におめでとうございます。これからも大和の外国につながる子ども達のために協働させて頂けたら嬉しいです。

津田 いずほ

ベトナム語ボランティア

国際化協会のおかげで、外国人市民が日本に住みやすくなりました。外国人市民の皆さん、何か困ったことがあったら、いつでも国際化協会に行ってみて下さい。

ファンティ タンヅム

ハンブルボランティア

書店の棚に「国際化」「国際人」といった文字が並ぶようになりました。先駆者として今後も疼い所に手が届く協会でいてください！

山崎 澄子

協力指定店

Mis felicitaciones a la Asociación Internacional de Yamato por los 20 años cumplidos en el acercamiento de los diferentes países y culturas del mundo que difunden.

(大和に暮らすいろいろな国の人々と、その人たちの文化を地域に橋渡しする活動を、20年にわたり続けてこられたことに敬意を表します。)

ケイミストラ

日本語教室

20周年おめでとうございます。外国人にとっても日本人にとっても、住みやすい大和の街を作っていきます。

つるま読み書きの部屋

多文化共生会議ファシリテーター

これからますます多文化共生の社会が目指されます。大和市でもその歩みを一層進めるために、国際化協会の役割に期待しています。

清水 睦美

中国語ボランティア

大和市国際化協会は大和市にいる多国在住外国人の信頼できる友、依頼できる組織、未来のある団体でございます。加油(がんばれ)！

王 俊秀

日本語・学習支援ボランティア

はじめは不安そうにしていた子が、少しずつ学校や日本の社会に慣れていく。その成長の過程は見ていて嬉しいものです。子ども達と過ごした時間は、私の大切な時間になっています。

岩田 陽子

クロスカルチャーセミナーボランティア

3年前、大和に引っ越して来ました。中国結びや台湾茶道を通じた文化交流を楽しんでいます。ここで文化交流を続けていきたいと思っています。皆さんとの付き合いが大好きです。

小泉 真由美

タイ語ボランティア

おめでとうございます。小学校の「あゆみ」や保護者へのお知らせのタイ語翻訳、学校での通訳など、またお声をかけてください。

日タイを言葉で結ぶ会
ラックパーサータイ**スペイン語ボランティア**

20周年おめでとうございます。真の多様性と共生の実現に20年間で尽力された貴協会に心から敬意を表します。

東 映子

中国語ボランティア

8年間近くボランティアとして健康教室の教師を勤めさせていただき、今カルチャーセンターの「かつさ&養生」講座に携わっています。健康都市の実現に貢献できたいと思います。

小菅 小培

ポルトガル語ボランティア

人の役に立つ事が大好きです。協力することができて心から嬉しいです。これからも活躍し続けられたら嬉しいです。今後ともよろしくお願いします。

高橋チエミ

日本語・学習支援ボランティア

指を使わないと繰り上がりの足し算ができなかった児があるとき、「頭の中で考えたら出来たあ〜」と云った。本人も私もうれしくて抱き合っていました。小学1年生の男児との思い出。

広瀬 洋子

市内活動団体

国、言葉、文化、考え方が異なっても互いに信頼し、手をつなぎあう仲間たちの間をつないで下さる活動に期待しております。

特定非営利活動法人
日本ペルー共生協会**多文化共生会議委員**

いちょう団地に関わって6年になります。此処ほど日本人と外国人の調和がみられるところはないです。機会をくれた協会に感謝します。

菊池 健一

ごぞいます!

協会に、ゆかりのある皆様
ださいました。
化にむけて取り組んでい
援のほど、よろしくお願い

おめでとうございます!

20周年を記念して創設された表彰制度による一般表彰の表彰者が決まりました。

当協会登録の通訳・翻訳ボランティアとして多年にわたり活動を継続された個人

石間 フロルデリサさん	タガログ語
恩智 敏子さん	スペイン語
田野井 咲奈さん	中国語
米川 敬祐さん	スペイン語
西脇 博さん	スペイン語
楠 瑠美子さん	スペイン語
山崎 澄子さん	ハングル
新岡 史浩さん	ラオス語
常泉 由里さん	英語
木村 美佐子さん	ポルトガル語
河尻 信己さん	英語
岡部 範子さん	タイ語

外国人市民のための生活相談、支援活動を多年にわたり継続された団体

特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会
県内に暮らすインドシナ難民出身者を中心とした外国人市民に対し、日本語教室、生活相談などを開催しているNPO法人

すたんどばいみー

外国にルーツを持つ青少年を中心に自治的な運営・活動を行っている当事者団体

外国人の日本語学習を多年にわたり支援し、活動を継続された団体

大和日本語教室

毎週日曜日 10:20-12:30
保健福祉センター他で開催

日本語教室かけはし

毎週金曜日 10:00-11:30
保健福祉センター他で開催

かたつむりの会

毎週土曜日 10:00-12:00
青少年センター他で開催

つきみ野あいうえお

毎週金曜日 13:30-15:00
つきみ野学習センター他で開催

おでん

毎月3回 火曜日 18:30-20:00
青少年センター他で開催

やまと・ともだち

毎週金曜日 19:30-21:00
桜ヶ丘学習センター他で開催

やまびこ

毎週木曜日 19:00-20:30
保健福祉センター他で開催

国際協力、交流活動を多年にわたり継続された団体

大和地区日中友好協会

市内において、日本と中国の友好交流活動をつづける団体

バラード

地域に暮らす外国人市民との交流活動をつづける団体

神奈川県央日韓親善協会

県央地域において日本と韓国の友好交流活動をつづける団体

当協会の事業に対し、多年にわたり協賛を継続された企業

株式会社 永屋

株式会社 ジェー・アール・シー

当協会の協力指定店として多年にわたり継続された店舗

カンボジア料理 アンコール・トム

小田急トラベル 大和営業所

福田まんじゅう本舗 みどりや

ヤマダ写真スタジオ西口店

フランス料理 デリス

タイ料理レストラン イーサン食堂

アジアの台所 Makan Makan

※功勞表彰の該当者はありません。

国際化協会では、設立20周年を記念して新たに表彰制度を創設しました。当協会の発展に功勞のあったもの及び地域の国際化推進に貢献したものを表彰するもので、今後、毎年当協会の事務局長が推薦し、当協会役員が委員を務める表彰審査委員会で審査します。

受賞者の横顔

非営利活動法人かながわ難民定住援助協会

1986年に、定住促進センター出所後のインドシナ難民のアフターケアを目的に作られた団体。現在は、難民に限らず広く神奈川県内に暮らす外国人市民の自立につながる事業を行っている。

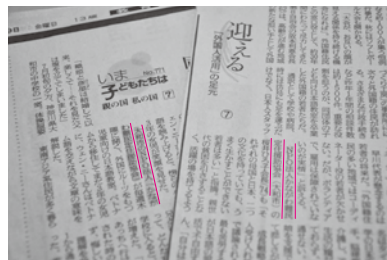
今年は、「多国籍団地」とメディアで取り上げられ、横浜と大和にまたがる県営いちよう団地に注目が寄せられている。代表の桜井さんのところにも定住者を紹介してほしい、話を聞かせてほしいと取材が集まる。長く地元で拠点を置いて、現場で活動してただけに、県内の「地域の国際化」に関する施策や事業に意見を求められることも多い。意識しているのは彼らの「代弁者」になること。日本語の壁が立ちはだかり、意見を言いたくても言えない人が多い。実際、困っていることは?と聞くと、その半数以上が「日本語」と答える。30年以上たっても、自分の名前さえかけない難民定住者の姿を目にするにつけ、系統だった日本語を学習する機会の必要性を強く感じる。だから、援助協会の活動の中心は日本語支援。現在は19グループが21のボランティア教室を展開している。それを支えているのが230名いる会員。プロの日本語教師も少なくない。

今、懸念しているのは日本語学習をはじめとする、外国人定住者の環境整備が図られないまま、新たな外国人の受け入れが予測されること。環境が整えば、彼らは社会の一員として、地域を活性化させる原動力になると信じる。

最後にこれからの国際化協会に期待すること何う。

「行政と外郭団体、民間・現場の役割分担が大切であると思っています。行政がハード面、民間がソフトの面を担う。国際化協会にはハードとソフトをつなぐ中間組織としての役割を果たして欲しい。日本語教室が抱える大きな課題の一つは、活動場所の確保ですが、大分以前から慢性化していて、解決しないのは残念です。拠点となる施設を持って欲しいと期待しています」。

心して取り組んでいきたい。



8月の新聞から



日本語教室の様子

住所: 神奈川県大和市上和田1748-10
電話: 046-268-2655
HP: <http://www.enjokyokai.org>
代表者: 桜井 ひろ子

すたんどばいみー

県営いちよう団地地域を活動拠点に、小・中・高校生の学習支援や母国語教室、職業体験などを行っている当事者団体。外国にルーツを持つ青少年が中心となり、「地域の外国籍の子どもたちが、一人の外国人として日本社会で自立していくための力をつける場」を作ることを目的に活動している。

子どもたちが自立していくのに、もちろん学力は欠かせない。でも、それだけではないだろうと感じる。勉強の合間に漏らす、学校のこと、友達のこと、家族のこと。自分の通った道だから、何を不安に思っているかは大体わかる。「知識」、「言葉」、そして「周りに相談すること」。これを身につけてほしいと願っている。

社会に出たメンバーと高校生、大学生でこの春から「社会人教室」を始めた。

社会に出ることで、広がるように思えた世界も、仕事に追われるようにして過ごしているだけで、実は狭いと知った。自分の状況を説明するにも周りとコミュニケーションを取るにも、何だか自分には「言葉」が足りない。学校では教わらない知識も必要だ(それは、日本人の間では、学ばなくても引き継がれているように見える)。社会で、外国人として生きていく不安もある。大なり小なりそれぞれが抱えている葛藤を共有し、学びあえば、解決策も見えてくるのではないかと。そして経験を伝えていくことで、後輩たちの道を作りたい。

国際化協会は、母語教室のような、外国人市民の母文化を次世代に継承していくための事業を、なかなか手掛けられずにいる。しかし、幼少のころに日本に来た、もしくは日本生まれの外国につながる子どもたちは「自分のアイデンティティと向き合う」ことを避けて通れない。自分と向き合い、折り合いをつけることができれば、日本社会は居心地が悪いままであろう。

今、私たちにできることは、広く彼らの思いを伝えていくことか。

外国人として社会に出ることの不安を感じることなく力を発揮できる地域づくりへ努力を続けたい。



学習風景



夏休みキャンプ

主な活動場所: 渋谷中学校学校開放
Email: 2011sbm@gmail.com
代表: 宮脇英理

20周年記念座談会

「多文化」は地域を
元気にするか？

国際化協会が、設立されて20年。

私たちは、多くの外国人市民と出会う中で、「彼らの個性は、地域を元気にする力になるのではないか」と考えるようになりました。また、多くの人が「何かの役に立ちたい」という気持ちを持っていることを知りました。

外国人の日本での生活は、今も変わらず困難なことがたくさんあります。それらを克服していくための努力なしに、力を発揮してもらうことはできません。

今回、外国人市民の力を活かして地域を元気にするために必要なことは何かを話しながら、国際化協会のこれからを展望しました。



「帰りたい気持ちもあるけれど、困る人がたくさんいるよと止められます。だからなるべく一日前にラオスに帰りたい。」

新岡 史浩さん

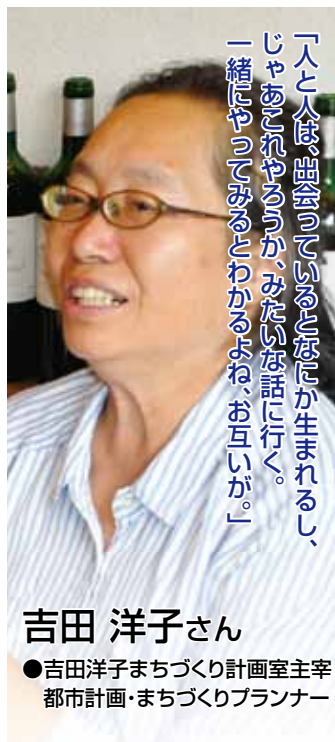
●ラオス出身・日本国籍
NPO法人在日本ラオス協会
事務局長



「日本人と接する時は、自分ではない違う人にならないと、うまくいかない時もありますね。」

上田 タニさん

●ペルー国籍・外国人市民
当協会登録ボランティア



「人と人は、出会っているとどこか生まれるし、じゃあそれやるうか、みたいな話に行く。一緒にやってみるとわかるよね、お互いが。」

吉田 洋子さん

●吉田洋子まちづくり計画室主宰
都市計画・まちづくりプランナー



「お互いが力を出し合い、補い合って一つの『コミュニティ』を作っていくように、という考えを基にした事業も展開したいと考えています」

小木曾 明

●当協会理事長

■様々な背景を持つ外国人市民が暮らす大和

小木曾: 今日皆さん、はじめてお会いするので最初に少し、自己紹介をお願いします。

吉 田: 吉田洋子と言います。都市計画・まちづくりの仕事を長くやってきました。大和市では「街づくり推進会議」の委員や「街づくり学校」の講師をしています。これもかなり長くなりました。住んでいるところは横浜の三ツ沢というところ。そこでは、地域の方や学生たちと一緒に街の清掃活動をしたりしながら、まちづくりを進めています。あとは東横線の反町駅というところでサロンを運営しています。そこは障がいのある方たちが市民ボランティアと一緒に運営に参加しています。大学で教えたり、ほかにもいろいろなことをやっています。

新 岡: 新岡史浩です。NPO法人在日本ラオス協会の事務局長です。普段は県内の教育委員会で、外国人指導員として小中学校で子どもたちの支援をしています。ほかには、医療通訳、神奈川県警の通訳、国際化協会の通訳・翻訳ボランティアをしています。一番大変なのは、愛川町にラオス協会を持っている、在日本ラオス文化センターにかかわることです。ここには、自分たちの手で作った寺院があります。ラオスからお坊さんに来てもらっていて、そのビザの手続きや、ラオスの暦で仏教の年中

行事をやるんですけど、その準備などがあります。昭和20年生まれで、35歳で国を出ました。もう日本に暮らすラオス人の中で、3、4番目ぐらいに年上になりました。日本政府の難民受け入れの第1号で、1979年に日本で最初にできた姫路（兵庫県）の定住促進センターの出身です。

小木曾: 大和にはどのようにして？

新 岡: 1980年から14年間、工場で現場の仕事をしていたんですけど、大和の定住促進センターの当時の所長に偶然会った時に誘われて、日本語ができたので、大和のセンターの通訳として働くことになりました。その時会社でもらっていたお給料は40万円で、通訳の仕事は20万円。でも、長く頑張っていけば定年まで働けるかな、と思い切って仕事をかえました。

上 田: 日本語はどこで覚えたんですか。

新 岡: ラオスにいた時です。実は1965年に6か月間、日本に研修を受けに来たんです。その時は全く日本語がわからなくて、フランス語で研修を受けていました。日本政府が、ラオスに水道局を整備したのですが、ラオスには水道設備の責任者になれる人がいないということで、工業専門学校を卒業するところだった自分が、3人の同級生と、日本へ行くことになったんです。研修から戻ってきた

ら、青年海外協力隊が開いていた日本語教室がちょうどあったので、昼間は新しい水道局で働いて、仕事が終わってからそこで勉強しました。

上 田: 上田です。私は東京で生まれました。6歳の時まで東京にいて、そのあと家族でペルーに行って、また東京に帰ってきて。アメリカにも住んだことがあります。

小木曾: じゃあ、最初はスペイン語に苦労しましたか？

上 田: そうですね。6歳で初めてペルーに行ったので、学校に入ったときにはスペイン語が分からなくて大変でした。でも、すぐ覚えて、今度日本語を忘れて…。私は、夫が日系ブラジル人なんですけれど、南林間にあるプロテスタントの教会（カンパーランド長老キリスト教会高座教会）のブラジル人集会の牧師をしていて、そこで出会って結婚しました。しばらく大和にいた後、ブラジルに帰っていた時に子どもが生まれました。2006年にまた大和の同じ家に帰ってきて、高座教会の中には、スペイン語礼拝やブラジル人集会というのがあるんですけれど、私たちはブラジル人集会のケアをしています。その他には国際化協会の通訳のお手伝いをしています。

小木曾: 上田さんのアイデンティティはペルーですか？

上 田: 父方、母方どちらも祖父が移民した日本人で、ペルーの人と結婚しました。両親は結婚して日本に来たんです。なので私は日本生まれのペルー人です。子どもはブラジルで生まれて、ブラジル国籍なので、そのルーツを守ってほしい。ポルトガル語を忘れないでほしいし、スペイン語も覚えてほしい。だから必要に応じていろいろな言葉で話しています。日本語は幼稚園で初めて触れたので、やっぱり最初は大変だったみたいなんですけれど、今では慣れて、楽しく学校に通っています。

小木曾: 私は国際化協会の理事長をしている小木曾です。今日は進行役を務めます。よろしく願います。それにしてもお二人のお話を聞くと相当ご苦労された感じですね。でも、語学での苦労が人生を切り開いていった原動力ですね。

■外国人市民は地域の一員か？

小木曾: 今までの協会は、どちらかというと外国につながる方の支援をしていこう、というところを重点的にやってきたんですけれど、これからは外国人と日本人が、お互いを補い合って一つのコミュニティを作っていこうよ、という考えを基にした事業もやっていきたいと考えています。20周年を機にこれからの国際化協会をどうしていこうか、と考えるにあたって、ご意見を聞かせていただければありがたいと思います。その点で、外国につながる方たちは、地域の一員になっているという感覚はありますか？

上 田: どちらかというと感じているとは言えないですね。でも、うちの近所に住んでいる方があいさつをしてくれたり、おすそ分けしてくれたり。一人だけなんですけれど、付き合いはあります。

吉 田: 自治会には入ってらっしゃるんですか？

上 田: 入ってないんです。

吉 田: 入らないんですか？とか言われたことは？

上 田: いいえ…。

吉 田: そう…。入っていないと困ることはないですか？ゴミだしとか。

上 田: 詳しく書いてある資料があるし、私は日本語が分かるからそんなに苦労はしていません。読めない人は本当に大変だと思う。自治会っていうんですか？私それも全然知らなくて…。ここにきて何年かたって、近所の家に「〇〇組長」と書いてあるのを見て、これなんだろうって思いながら、もしかしたらそういうことなのかなって。どうやって会員になるんですか？

小木曾: お住まいのところに自治会というのがあると思います。一般的には役員さん等が、お勤めすることが多いんですけれど…。

新 岡: 私はずっと自治会に入っています。ラオス人は、団地に住んでいる人が多いこともあって、大体みんなも入ってますね。草むしりとか掃除とかも出ていますよ。私のところは小さい団地なので、出ないと恥ずかしい思いをするんですね。難民の場合、来日したら、必ず定住センターに入って日本語と生活習慣を教わります。そこで教えてくれました。ラオス文化センターを設立したのが11年前なんですけれど、センターも自治会に入っています。毎年、自治会長さんが替わるたびに、「私たちにできることがあったら、声をかけてください」とあいさつに行きます。3年前に、センターの課題は、週末に集まってくる人たちの駐車場が十分でない、ということだったんですけれど、「土地があいているので停めてください」って申し出てくださったんですよ。この時は本当にありがたかったですね。

吉 田: 横浜の方の自治会で、階段の掃除当番とかを、最初は外国人の住人が増えてきても、日本人だけで頑張ろうってやっていたんですけれど、最近は結構大変だってことになってきて、外国人の方にも手伝ってもらおうようにしたい、と相談をされたことがありますよ。高齢化などもあって外国の方たちの手を借りないと、というようになってきていますよね。

お子さんの学校を通したつながりはどうですか？

上 田: 子どもの仲のいい友達のお母さんとは、メールとか家に遊びに行ったり来たりしますけど、それ以外は…。PTAの役員も、まだやったことはないんですけれど、子どもが今4年生で、卒業するまでにはやりたいなと思っています。



- 吉 田: 教会のコミュニティの結束が固いんですね。引っ越してきても、そのコミュニティに温かく迎え入れられるでしょう?
- 上 田: 家の周り以外では、毎日たくさんいろいろなことがあります。
- 小木曾: イギリスなんかでも教会を中心とした地域コミュニティがあると聞きますが、日本は、その代わりに町内会や自治会があるんでしょうね。ただ、お互いの言葉の心配などから、外国人の方に声をかけるのを躊躇してしまうような感じはありますね。これからの課題ですかね。
- でも、お話を聞いてみると、教えてもらえる機会が、新潟さんの場合はセンターだったわけですが、あったらそのあとスムーズにコミュニティにも入っていけるけど、上田さんのように、日本語がおできになっても、ちゃんと教えてくれる人がいなければ、国によって地域コミュニティの仕組みも違うし、わからない。こちら辺にヒントがあるように思いました。



■日本の抱える課題と外国人市民の抱える課題

- 吉 田: 今、日本の社会はかなり大きな課題を抱える時代になってきてしまっていて、例えば介護や地域コミュニティの担い手が高齢化しています。税収が減っている中では、役所だけを頼りにできなくなってきていて、みんなで助け合わなければいけない時代になってきました。ところが、日本人は、例えば所得だったり、価値観だったり、みんなほとんど同じだろう、と考えていたのだけど、本当は隣近所でもすごく変化してしまって全然違う。「同じがいい」という価値観だけは今も残っていて、それに縛られてしまっていることがあります。そんな文化が少し変わるようなきっかけに、例えば外国人の方たちが、コミュニティに入ってきてくれると良いのではないかな、と思う時もあるんですよね。反対に、外国人市民の皆さんの抱えている課題というのはどんなものがありますか?
- 上 田: 教会のコミュニティの中で、私たちはブラジル人の仲間のケア(牧会)をしているんですけど、病院や市役所、学校と一緒に付き添ったり、生活面だけでなく、精神的なカウンセリングもします。何かあったらすぐに私たちに電話をして、こんなことがあったんだけど…って。そういうことが、毎日、結構たくさんあります。例えば、子どもたちは学校に通って勉強しているけれど、なかなか勉強についていけなくて、高校に行けなかったり、それ

によっていろんな問題がそのあとから起きたりする。親は、今の日本の学校がどうなっているのかわからない。子どもたちと親とのコミュニケーションも壁で、親が言っていることが子どもは、子どもの言っていることが親はわからない。親の教育が必要だと思うんですよね。子どもが育っている環境と、親の文化が違うことでどんどん大きな社会問題になってしまうのを見ると、親同士の悩みを、どこかに場所があって相談できるといいなとか、子どもも、心の問題、外国につながる子たち特有の問題をどこかでヘルプしてくれるといいなとか。

小木曾: そういう時に、高座教会の日本人の方たちのつながりはありますか?

上 田: 今も月に1回は、一緒に気仙沼に支援に行っていますし、バザーとかあれば一緒に参加します。私たちは今、ネパールの人身売買被害者の支援をしているんですけど、日本のメンバーたちもお手伝いしたいって言ってくださって、そういうことがあると、日本人と交流したりしますが、お互いの課題を共有したりはしていないです。

小木曾: ラオス協会の活動も、同じような感じですか?

新 岡: やはり事務局長が、コミュニティの中心を担っていて、困っているときには、上田さんのところと同じように、時間も関係なく、24時間連絡が来ます。具体的なことでひとつ言えば、難民たちは50歳代が多くなってきて、今、県の窓口で相談に乗っていると、老後の心配はとても多い相談です。10人中8人は年金に入っていないか、入っていても受給期間を満たしてない。原因は、センターを出た後は、社会保障のしっかりした会社に入社できるけれど、お給料が安いところもある。お給料の高いところは、社会保障がしっかりしていないところもあったり。転々と仕事をかわっているうちに、やっと気が付いて、老後をどうするの?って。

小木曾: そういったことを、何とか地域のコミュニティにつなげていくことで、解決していけないかということを考えてみたいと思っているんですが…。

■分かり合うことの困難さを乗り越えるということ

吉 田: 横浜のある地区でも、外国人の方が住んでいるのですが、やはり孤立しがちで、日本人は、私たちのコミュニティに入ってきたらっていうんだけどなかなか進まない。やっぱりハードル高いのかな?結構難しいことだと思います。

新 岡: やはり言葉が、ハードルになっていますね。あともう一つ、私たちの国の人はあまり「自信」がありません。消極的になってしまうんですね。

上 田: 言葉の壁って私たちにとってもすごく大きいんですけど、言葉だけじゃなくて、価値観もやっぱり違います。日本人が楽しくやっていることが、必ずしも私たちにとって楽しいとは限らないし、その反対もある。ずっと一緒に何かをやるっていうのは難しいかもしれない。

吉 田: 日本人たちが楽しそうに話が出たけど、そう思っていない人たちも結構いる。我慢して合わせているのです。自分が教えている大学で、日本人の大学生に、留学生が「友達ができない」って言うって言ってても「日本



人同士でも友達がいません」って。パソコンに向かっていたり、どこに行っても携帯ばかり見ていたりして、人との付き合い方が上手ではないんですよね。違うやり方っていうのを少し表わせたら、結構日本人にとっても楽になるんじゃないかなって思いますけれどもね。

上 田: 私たち南米の人たちは、大きな声で、話したり笑ったりするんです。でも家の近くでは静かにしないと怒られたりする。迷惑をかけないように考えると、自分のありのままでは生きていけない。南米の人というと普通でいられるけど、そこから出ればちょっと押さえなきゃいけない。それを考えながら日本人と接すると、自分ではない違う人にならないと、うまくいかない時もありますね。

新 岡: 私が考える、外国人が地域に参加する方法は、日本人はもうちょっとオープンになって、彼らが身構えなくても入りやすい方法を考えてほしいということです。外国人市民からのアクションを待っていたらいつまでも難しい、来なくなってしまうんじゃないかな。できればぶつかって、声かけてという方が早いんじゃないかなって思うんですが…。

小木曾: そうやってお話を聞いてみると、日本人と外国人が「協働」して解決するというのは難しい話のように思えてきますが…。

上 田: でも、お互いに一緒に何かをする「時」っていうのは大事だと思う。私たちも日本人のことを知って、認め合って尊敬するっていうのも大事だし、日本人の人たちも私たちのそういう価値観とか習慣にも興味を持ってくれて、いいねって思ってくれることも、大切だと思うんですけどね。でも、どこかでポツンって一人で入るのは、すごく勇気がいるし難しい。

小木曾: きっかけは何か必要ですよ。日本人同士でもやっぱり同じで、なんかでたまたま声をかけて、少しずつ参加するようになっていくうちに、絆が太くなっていく。

上 田: ラテン系の人たちと日本人の一つの大きな違いというのは、日本人は、とても規則正しく、時間を守るという印象があるじゃないですか？それについていけない私たちと、そこで行き違いとかストレスとかトラブルになってしまうことも実際に起きると思うんですよね。そういうこともあるっていうことを、頭に入れておいてもらおうとありがたいというか…。逆に私たちも日本に住んでいるから日本に合わせないといけない、ということを学ばないといけないからいい刺激になるはずですよ。

小木曾: お二人のように、日本人のメンタリティを理解して、日本人に合わせられる人だから地域に入れる、というだけではなくて、自分たちの個性を持って入っても受け入れられるということがあると良いですね。

吉 田: 日本人は時間にきちんとしている風に言われているけれど仕事を持っている女性などは、規則正しく時間を守りたいと思って、それでは回らなくなっている。日本社会も変わり始めているし、変わらないといけないところに来ていますよね。違った観点からのパワーが必要になってきています。

小木曾: 上田さんがおっしゃるような、小さな行き違いによるストレスが避けられなくても、却ってそれが地域の活性化を呼ぶのかもしれないですね。

■これからの国際化協会に求められること

吉 田: 国際化協会で、これからどんな役割を果たせばいいかという話なんですけれど、課題を解決しようとするとなかなか解決できないことばかりになってしまう。楽しいことから始めては？という面もあるのではないのでしょうか。まちづくりの観点で行くと、あんまり「これをやったらどうだろう」と思わないで、無理が出たところを支援していくほうがいいんじゃないかなと思うんです。例えば日本人の子育てサークルと、じゃあちょっと外国の方たちがやっているやり方を、一緒にやってみようという提案がもしあったら、コーディネートをするとか、場所を提供するとか、活動しやすく環境を整える方が出てくるアイデアが面白いんじゃないかな、と思いますけどね。

小木曾: つながり始めるきっかけが見つけにくいという感じがあるのだと思いますが、そこに国際化協会の役割があるんでしょね。みんなが興味を持ってくれそうなきっかけをいくつも提案して。

上 田: 私たち教会でも、例えば、介護施設なんかに子どもたちを連れて、ポルトガル語で歌を歌ったり、お年寄りの方と触れ合ったりとか、そういうことはしてみたいです。でも、どういう風にすればいいのかわからない。

吉 田: 自治会の老人会なんかでもそういうことをやってくれたら喜ぶと思いますよ。

上 田: 私たちにとって、一緒にいるっていうのがすごく大切なことなんですけれど、なかなかそれができる場所がないので、どこかそういう集まれるところがあれば、私たちも職場の日本人の方とか、近所の方とか、子どものお友達のお母さんとかもお招きできるんですけど、みんなが集まって何かができる場所がないんですよ。

吉 田: 場所と機会が必要ですね。

それと、協会の役割ということでは、外国人を取り巻く課題として、教育、老後、介護といったちょっと重たい話もある。やはりそういうところに関しても、情報的的確に捕まえて、ちょっと真剣に、前もって考えていかないといけないのかなって気はしますよね。それはやはり重要な協会の役割かなと思いました。

小木曾: 今日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

国際化協会の活動紹介

国際化協会の概要

設立の目的（公益財団法人国際化協会定款第3条）

大和市において様々な文化や個性を持った人たちが、互いの違いを認め合いながら、持てる力を発揮し、ともに豊かな社会づくりに貢献できる環境を整えることで地域の国際化をすすめ、もって国際社会の平和と発展に寄与することを目的とする。

国際化協会の事業内容

外国人市民の自立と社会参加を促進する事業

外国人市民が日本社会への理解を深めるために必要な情報を提供し、外国人市民の日本語力の向上や、自らが主体となって進める国際化推進活動を支援することを通じて、地域に住む外国人市民の自立と豊かな地域社会づくりへの参画を促進します。

①外国人市民が地域で暮らすために必要な情報の提供事業

多言語通訳窓口の開設／登録ボランティアによる通訳・翻訳サービス／
外国語版情報紙の発行／生活セミナーの開催／コミュニティラジオを通じた情報の発信など

②外国人市民の日本語学習を支援する事業

日本語スピーチ大会／日本語ボランティア教師養成講座／日本語教授法ブラッシュアップ講座／
日本語教室の開催／大和日本語支援ボランティアネットワークの運営など

③外国につながる子どもたちへの日本語及び教科学習を支援する事業

日本語・学習支援ボランティアの派遣／日本語・学習支援ボランティア養成講座／
夏休み子ども教室の開催など

④外国人市民の社会参加を支援する事業

外国人市民サミットの開催／外国人市民グループへの運営支援など



「日本語スピーチ大会」



「外国人市民サミット」

市民の相互理解を促進し、市民主体の国際化推進活動を支援する事業

市民が多様な文化に触れることのできる機会を提供し、市民が主体となって進める国際理解や国際交流、在住外国人支援活動を応援することを通じて、市民がそれぞれの違いを認め合い、尊重し合える地域づくりを進めます。

①市民の国際理解を促進するセミナーの開催

国際理解講座／外国語講座／クロスカルチャーセミナーの開催など

②地域における国際交流の場の提供事業

やまと国際交流フェスティバル／やまと世界料理の屋台村の開催など

③市民が主体の国際化推進活動を支援する事業

ボランティア交流会の開催／ホームステイ・ホームビジットバンクの活用／
国際化推進事業に対する助成金の交付など

④地域の国際化に関する情報の提供事業

機関誌「Pal」の発行など



「やまと国際交流フェスティバル」

通訳・翻訳サービスのご案内

●登録ボランティアによる通訳・翻訳サービス(有料)

登録ボランティアが公共機関での手続きの際に同行して通訳したり、必要な証明書の翻訳をおこなったりしています。依頼内容によっては受理できない場合がありますので詳細は事務局へお問い合わせください。

●通訳員による通訳サービス(無料)

外国人市民の皆さんからの生活全般に関する質問や問い合わせに当協会の通訳員が情報の提供を行っています。

言語	曜日	時間	場所	電話番号
スペイン語	火曜日・金曜日	9:00～12:00 13:00～17:00	大和市役所2階	046-263-8305
ベトナム語	水曜日	9:00～12:00 13:00～16:00	大和市国際化協会 事務局	046-263-1261 046-260-5126
中国語	第1・3・5木曜日	9:00～12:00		
タガログ語	第2・4木曜日	9:00～12:00		
英語	月曜日～金曜日	9:00～12:00 13:00～17:00		

TRAVEL SUPPORT Inc

トラベル サポート 海外正規割引航空券
ホテル・現地ガイドの手配もOK

TEL 046(204)7714 E-mail travel-support.h@gol.com

大和市国際化協会の沿革

1992年7月	大和市国際化協会設立(任意団体) 通訳・翻訳ボランティア登録制度(～現在まで) 機関誌「pal」発行開始(～現在まで) 日本語教室の開催(～現在まで不定期に開催) 日本語ボランティア教師養成講座(～現在まで不定期に開催)
1993年	やまと国際化フォーラム「混住から共生へ“国際的ご近所づきあいを考える”」 英語、スペイン語 通訳窓口を開設(～現在まで)
1994年7月	財団法人大和市国際化協会発足 国際交流スポーツ大会 やまと国際交流パーティー(～2005年1月) 外国語と外国文化紹介講座(英語・ハングル・中国語・スペイン語など～現在まで) 外国語版情報紙「Terra(英語版)」・「Tierra(スペイン語版)」発行開始(～現在まで) 国際理解講座(～現在まで)
1995年	やまと国際化講演会「いくつかからでも始められる異文化コミュニケーション」 遠山顕さん やまと国際化講演会「国際化はこわくない」 蛭川真夫さん 「日本人へのメッセージ」日本語スピーチ大会と民俗芸能発表会
1996年	国際化フォーラム「これからのアジアと日本を考える」
1997年	やまと国際化講演会「言葉を超えて～レパノンの黒い瞳が見たニッポン」 石黒マリーローズさん やまと国際化講演会「物の国際化から心の国際化へ」 猿谷要さん やまと国際化講演会「未来に夢をつないで」 ペン・セタリンさん、永六輔さん、パク・キョンナムさん やまと国際化講演会「はじめようー地域から異文化コミュニケーション」 マリ・クリスティヌさん やまと国際化講演会「日本人再発見ーホップ ステップ ジャパニーズ」 グレゴリー・クラークさん
1998年	中国語通訳窓口開設(～現在まで)
1999年	中国語情報紙「你好(ニイハオ)」発行開始(～現在まで)
2000年	やまと国際化講演会「ニッポン人であいいふれあい・おつきあい」 カーリー西條さん やまと国際化講演会「内なる国際化・外なる国際化」 金美齡さん ベトナム語通訳窓口開設(～現在まで)
2001年	やまと国際化講演会「国際化は地域から」 マークス寿子さん
2002年	やまと国際化講演会「につぼん たて横ナナム」 ピーター・フランクさん クロスカルチャーセミナーボランティア登録制度(～現在まで)
2003年	にほんごで話そう!日本語スピーチ大会(～現在まで)
2004年	設立10周年記念やまと国際化フォーラム「これまでの国際化、これからの国際化」
2004年10月	第1期大和市多文化共生会議(～2007年3月)
2005年	ベトナム語情報紙「CHÀO BẠN(チャオバーン)」発行開始 やまと国際交流フェスティバル(～現在まで) やまと国際映画祭
2006年	大和日本語ボランティアネットワーク開設(～現在まで) やまと多文化共生講演会「日本は世界のリーダーになれる」 ベンジャミン・フルフォードさん
2007年	日本語・学習支援ボランティア登録制度新設(～現在まで) 日本語・学習支援ボランティア養成講座(～現在まで不定期に開催) 夏休み子ども教室(～現在まで) やまと多文化共生講演会「外国人として生きる日本」 フィフィさん
2008年	第2期大和市多文化共生会議(～2011年1月)
2009年	未就学児のための「にほんごひろば」開催(～現在まで) タガログ語通訳窓口開設(～現在まで) 外国人市民サミットの開催(～現在まで)
2010年	やまと世界料理の屋台村開催(～現在まで)
2012年4月	公益財団法人へ移行
2013年	第3期大和市多文化共生会議(～2015年1月)
2014年9月	設立20周年記念式典・講演会「多文化共生の実現を目指して～大和市の未来は多文化共生から」

「日本人へのメッセージ」
日本語スピーチ大会と民俗芸能発表会やまと国際化講演会
「未来に夢をつないで」

「やまと国際交流パーティー」

10周年記念事業
「やまと国際化フォーラム」

「やまと国際交流フェスティバル」



「第3期大和市多文化共生会議」

地域密着・顧客密着のクリエイティブ集団

SINCE 1885

似顔絵名刺で
集客!UP会話の
きっかけに
なるキャラクターで
売上!UP一目で
イメージが
伝わる

デザイン

似顔絵
キャラクター

販促支援

印刷

広告

ホーム
ページ

さん太くん

ご相談無料

株式
会社

さんこうどう

http://www.sankodo.net

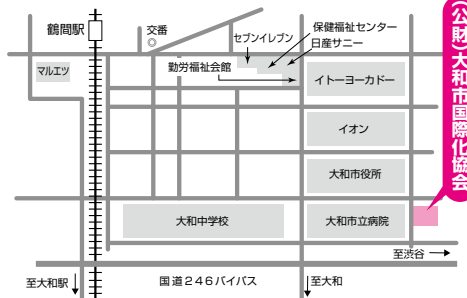
0120・3510・13



公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

講座、イベントへのお申し込み、お問い合わせは国際化協会事務局までお願いします。

■公益財団法人大和市国際化協会
〒242-0018 大和市深見西8-6-12
大和市役所分庁舎2階(大和市立病院の東側)
Tel:046-260-5126 Fax:046-260-5127
Email:pal@yamato-kokusai.or.jp
http://www.yamato-kokusai.or.jp
受付時間 月曜～金曜 第1・3土曜
午前8時30分～午後5時



マークの見方

- …日時
- …場所
- …定員
- …費用
- …対象
- …内容
- …講師
- …お申し込み方法

日本語教授法ブラッシュアップ講座

国際化協会では、日本語指導のスキルアップを図るため、「日本語教授法ブラッシュアップ講座」を開催します。今回の当講座では、前半に実習、後半に講義を予定しています。実習に挑戦したい方を各回5～6名募りますので、お申込みの際にお申し出ください。教室ですぐに役立ちそうな学習項目を取り上げた実習課題をいくつか用意いたしました。各自、その中から課題の一つを選んで、3分～5分程度の模擬授業をご準備ください。ご自分で考えた実習課題を行うことも可能です。実習課題の詳細は、大和市国際化協会までお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしております。

- いずれの日も 大和市保健福祉センター4F 講習室
- 対象 日本語教室ボランティア教師、日本語ボランティア養成講座修了生(但し、定員に空きのある場合はこの限りではありません)
- 参加費 各回200円

第1回 11月1日(土) 14:00～16:00

テーマ「発音指導・助詞など」

学習者にとって難しい発音、アクセントやイントネーションなどの指導、初級レベルの助詞の整理と練習方法

第2回 11月15日(土) 14:00～16:00

テーマ「初級文型を中心に」

動詞のグループ分けと「て形」の導入と説明、初級の文型(「～たことあります」など)の導入、説明と練習方法、敬語の整理と説明

第3回 11月29日(土) 14:00～16:00

テーマ「文字・語彙」

ひらがな・カタカナ・漢字の指導、類義語(「思う・考える」など)の説明と練習方法

グエンさんのベトナム料理教室 参加者募集

- 2014年11月28日(金曜日) 午前10時から12時30分
- 大和市保健福祉センター 3階栄養指導室
- ベトナム出身 グエン ティ モン ティンさん
- 内容 ベトナムの家庭料理「バインセオ」や「生春巻」を一緒に作りながら、講師の出身国であるベトナムの食文化や習慣などについての話を聞きます。
- 対象 どなたでも
- 15名
- 700円
- 申し込み 電話または国際化協会窓口で、10月6日(月)から先着順に受け付けます。(定員になり次第締め切り)

国際理解講座「もっと知りたいイスラーム」

今回の国際理解講座は、「もっと知りたいイスラーム」と題して、ムスリム(イスラム教徒)の食事とムスリム女性の服装に目を向けてみたいと思います。

ムスリム女性はどのように頭や体を覆うような服(ヴェール)を着ているのでしょうか。

第1回講座では、ムスリム女性とヴェールを切り口にイスラームを探ります。

第2回講座では、「ハラール」に着目します。2020年に開催が決まった東京オリンピックの影響なのか、昨今ムスリム向けの食事が注目されつつあります。ムスリムが日本で食事も自由に楽しめない状況では「おもてなしの国」の面目が保てません。イスラームの教えで許された「健全な商品や活動」を意味し、特に食べるのを許されたものを指す「ハラール」について考えます。

第1回 2015年2月22日(日) 13:30～16:00

第2回 2015年3月1日(日) 13:30～16:00

生涯学習センター303特別室

第1回 「ムスリム女性とヴェール」

第2回 「ハラールって何?」

第1回 東京大学東洋文化研究所助教 後藤絵美氏

第2回 一般社団法人ハラール・ジャパン協会代表理事 佐久間朋宏氏

対象 どなたでも

各回300円(賛助会員は無料)

申し込み 電話または国際化協会窓口で、10月6日(月)から先着順に受け付けます。

第10回やまと国際交流フェスティバル 実行委員募集!

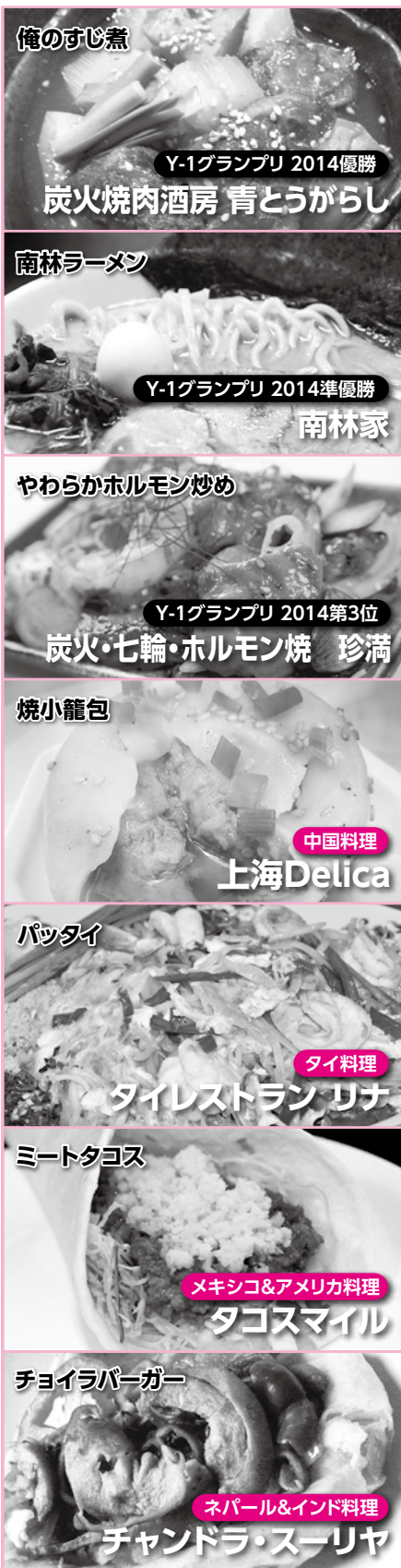
来年5月24日(日)に大和駅東側プロムナードで「第10回やまと国際交流フェスティバル」を開催します。大和市国際化協会では、当フェスティバルの準備に協力して下さる実行委員を募集しています。みんなでアイデアを出し合って、当日のステージやワークショップなどの内容を考えます。新しい友だちを作りたい方、交流イベントに興味のある方は是非参加して下さい。初回のミーティングは、11月22日(土)午後2時から、国際化協会(大和市立病院裏手)で行います。参加希望の方は、上記の国際化協会までお電話か、メールでお知らせください。

公式facebookはじめました。



facebook 大和市国際化協会

検索



やまとで 世界の料理を 食べ尽くそう！

やまと
世界料理の
屋台村
2014

10月26日(日)
10:00~15:00
**大和駅東側
プロムナード**

●小雨決行・荒天の場合は中止



【主催】大和市

【企画運営】公益財団法人大和市国際化協会

〒242-0018 大和市深見西8-6-12 大和市役所分庁舎2階

TEL:046-260-5126 FAX:046-260-5127

やまと世界料理の屋台村

検索



**YAMATO
ART
100**

公益財団法人 大和市国際化協会

〒242-0018 大和市深見西8-6-12

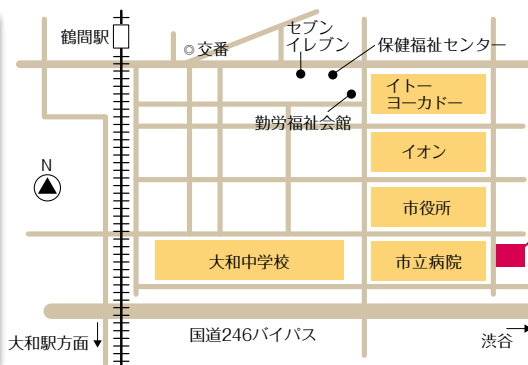
大和市役所分庁舎2階

Tel:046-260-5126

Fax:046-260-5127

Email:pal@yamato-kokusai.or.jp

http://www.yamato-kokusai.or.jp

受付時間 月曜～金曜 第1・3土曜
午前8時30分～午後5時公益財団法人
大和市国際化協会

2014年(平成26年)9月30日発行 第83号
発行 公益財団法人大和市国際化協会
印刷 株式会社 さくら印刷
〒242-0018 大和市深見西8-6-12 大和市役所分庁舎2階 TEL 046-260-5126 FAX 046-260-5127 URL: http://www.yamato-kokusai.or.jp Email: pal@yamato-kokusai.or.jp

国際化協会の活動に協力するには…

◆ボランティアになりませんか？

国際化協会の活動はボランティアの皆さんの協力により成り立っています。国際化協会の活動に興味がある方は、ぜひご登録ください！

●日本語・学習支援ボランティア

日本語力不足の外国につながる子どもに日本語や教科の学習支援を行います。活動場所は主に市内の小中学校です。

●通訳・翻訳ボランティア

市役所や学校などの公共機関、または個人からの依頼を受けて通訳や翻訳を行います。日本語と外国語に堪能で、ボランティア活動に意欲のある方が登録対象です。対象言語は問いません。

●クロスカルチャーセミナーボランティア

学校などからの依頼に応じて外国の文化紹介を行います。内容は母国の家庭料理、民族舞踊、生活習慣、ことば、歴史など様々です。

●事業ボランティア

イベントの企画、当日スタッフ、写真撮影などを行います。当協会の活動に興味があり、地域の国際化推進に意欲のある方が登録対象です。



◆賛助会員のご案内

私たちの活動に賛同し、支援してくださる個人、団体の方を募集しています。皆さんからの会費が当協会の事業などの資金になります。皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。

- 特典
- ①協会機関誌または外国語版情報紙の提供
 - ②イベント開催案内の提供
 - ③協会事業の参加料金割引サービス
 - ④協力指定店による割引などのサービス

●年会費(4月1日～翌年3月31日)

個人 1,000円(一口) 法人 10,000円(一口)

- 申込方法 当協会窓口へお越しいただくか、郵便振替でお願いいたします。



http://www.sikirei.com/

大和斎場でのご葬儀もご用命ください。

ゆっくりとお別れのできる 一日一家族の葬儀式場

家族想いの 大和式礼

ご自宅でのご安置にお困りの方、当館霊安室でお預かりできます。

大和式礼 ☎ 0120-143-011 年中無休 24時間受付

大和市大和東 2-9-13 相鉄線・小田急江ノ島線「大和」駅北口より徒歩約6分